

\*この事業は外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により実現しました。

# ブータン王国



サムタン職業訓練校に中古マイクロバス寄贈

対象地域：サムタン職業訓練校  
内 容：マイクロバス1台  
[静岡県の自治体より供出]  
輸送過程： 2007年9月 横浜港より出港  
カルカッタ港(インド)入港  
10月 車両が国境に到着  
引渡しセレモニー



## 世界唯一のチベット仏教国

ブータンは南アジアに位置し、ヒマラヤの南斜面にあり、インドと中国にはさまれた王国です。国土は約46,500km<sup>2</sup>で、九州の約1.1倍の広さをもち、チベット仏教を国教としています。国旗の黄色は政治を、オレンジ色は仏教を表していて、これら2つの力の調和を表現し、中央に描かれている雲龍は、「ブータン国そのもの」、「汚れのなさ」、「豊かさ」と繁栄」を表しているそうです。

今回マイクロバスを寄贈したサムタン職業訓練校がある地域は、首都ティンブーから東に75km離れたプナカ県サムタンです。ティンブーからプナカへ向かうにはドチュラという標高3,200mの峠越えて車で約3時間、緑の棚田が広がる、かつての冬の都(冬に首都機能が移された)です。

## 若者たちの「手に職」を！！

ブータンは就労人口の約9割が農業の農業国ですが、近年の産業化や人口増加などが原因で、若者たちの失業率が社会問題になっています。ブータン政府は専門技術を身につけるための職業訓練学校を設立し、この社会問題に対応しようとしています。中でもサムタン職業訓練校は、人材労働省傘下の高等教育機関であり、国で唯一の自動車整備コースがあるため、若者達の人気も高い学校です。自動車修理技術全般の実践的で効果的な実習を行うため、そして山間部に位置する施設内で生活する、訓練生や教職員とその家族など200名の生活を支えるために、日本からのマイクロバスは毎日活躍しています。

## 「KUENSEL」紙に記事掲載

「KUENSEL(クエンセル)」はブータンで最も歴史のある新聞です。1967年に官報として創刊され、1986年に週刊新聞となり、07年からは水・土曜日に発行されています。今回、静岡県の自治体より供出された中古マイクロバスが、ブータンのサムタン職業訓練校に寄贈されたという記事が、「KUENSEL」の新聞記事及びホームページに掲載され、話題になりました。07年10月に首都ティンブーにて引渡しセレモニーが開催され、在インド日本大使館からサムタン職業訓練校へマイクロバスが贈呈されました。



引渡しセレモニー：鍵贈呈シーン



引渡しセレモニー：集合写真



工場地域への修学旅行に出発！！



バスは職員の子供の通学にも利用



実習先への移動の様子



KUENSEL紙の記事に取り上げられました。